

岐阜県の プラスチック

工業高校の就職担当者を招いて説明会を開き、初懇談
——プラスチック業界と企業への理解を求める——

労働時間短縮自主点検事業が成果を残して終わる

岐阜県内のプラスチック製造品出荷額は3,177億円、最盛時に迫る

デザインの心—17

組合員の工場訪問・(株)ヨコー
事務局だより

工業高校の進路指導の先生を招いて開いた企業説明会



工業高校の就職担当者を招き説明会

現況や将来を説明し初懇談 プラスチック業界への理解求める

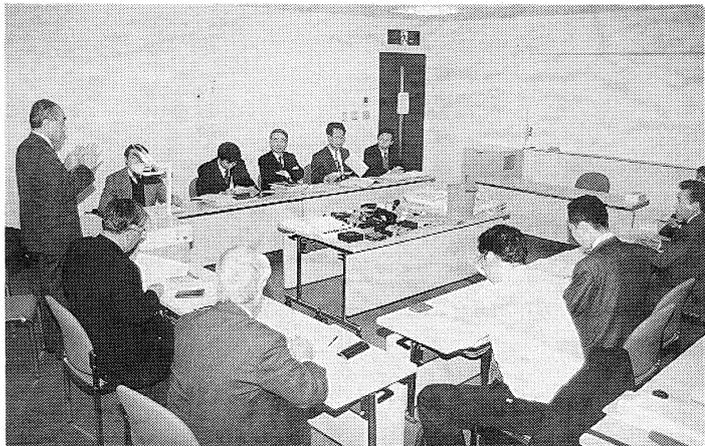
岐阜県プラスチック工業組合は2月25日、岐阜県民ふれあい会館に県内工業高校のうち5校の就職担当者を招いて『プラスチック企業説明会』を開催した。この事業は実施中の事業再構築雇用推進事業の一環として初めて試みたもので、組合側から「県内プラスチック業界の現状と将来や、組合員企業が成形したサンプル製品の説明」を行い、また①各工業高校の就職状況、生徒や学校側の就職についての考え方②今後の県内プラスチック企業への就職の進め方—をテーマに有意義な懇談を行った。

業界の将来を生徒に伝えて

プラスチック企業説明会に招いた就職担当者は、岐阜総合学園高校工業科・加藤嘉彦先生、岐南工業高校・秋田公三先生、岐阜工業高校・早川晃示先生、大垣工業高校・久保田一成先生、可児工業高校・藤本勝美先生の5公立工業高校の進路指導主事5人。組合側は事業再構築雇用推進事業の推進委員と成形サンプル提供企業の担当者ら15人が出席した。

企業説明会は日比勝次委員長（工業組合副理事長）の「プラスチック産業は岐阜県7大産業の一つに数えられながら、高校生の関心度は低いようで新卒者の就職率は極めて低いのが実情です。ハイテク化が進む県内企業の現況と将来性を知ってもらい、生徒に伝えてもらうために初めて説明会を開きました」とするあいさつ、続いてシーシーアイ(株)の坂部雅也技術開発部長が『プラスチック企業の現状と将来』をテーマに実情を説明した。

坂部部長は「新しい用途、新しい樹脂が相次



進路指導の先生を招き、業界の現況や製品を説明

ぎ開発され、プラスチック製品はあらゆる産業あらゆる生活の中に組み込まれている」と前置きして①身近にあるプラスチック製品と成形方法②ハイテク製品づくりに欠かせない高機能プ

ラスチックの用途と役割③プラスチック廃棄物の現状とそのリサイクルについてスライドやビデオを使って説明し、理解求めた。

工業高校の就職状況とその考え方

続いて進路指導の各先生と企業側との懇談に入った。まず、各工業高校の就職状況、生徒や学校側の就職に対する考え方についての発言をまとめると。

「就職期の求人内容を見ると、高卒は大卒の45%に対して25%にすぎず、求人のねらいは大卒に向けられています。これは高卒就職者の数が大卒者に比べてはるかに少なくなったからでしかも、工業高校生の製造業への就職希望は60%にとどまり、企業側から見た高卒就職者に対する求人活動は狭き門です」

「進路指導にはやはり本人の希望が第一で、相談を受けてから各会社や産業の情報を提供しています。最近の傾向としては県内で、しかも

通勤距離の近い所が目立ち、今年の場合、就職希望した212人のうち、プラスチック業界へは9人就職する予定です」

「就職希望した生徒のうち一般企業への就職は60%に当たる210人ほどです。このうち県内企業へは70%が就職しますが、初任給の格差もあって県内企業は昨年より10%ほど低くなりました。これまでの傾向として、プラスチック業界への就職希望は化学工業科の生徒が中心でしたが、最近では機械系の生徒が多くなり、逆に化学系の生徒の選択肢が狭くなってきました。進路指導を担当して思うことは「創意工夫しながら働ける企業、若い力を発揮できる企業」を選んでやりたいことです」

「テレビやスライドを見せていただき、プラスチック業界の日進月歩の発展ぶりをよく知ることができました。進路指導に役立てていきたいと思いますが、どちらかという生徒は成形加工より金型加工に興味をもつようです」

学校側とのパイプを太くし情報提供を

工業で身を立てようとする工業高校生は半数以下に

さらに今後の県内プラスチック企業への就職の進め方をテーマに懇談を行い、次のような発言があった。

「高校求人は狭き門といいましたが、金の卵といってよいほどです。したがって就職先の選定シーズンに入ってからではもう遅い。学校側とのパイプを太くし、生徒への情報提供をどしどし行ってもらうことです。企業や業界を紹介するパンフの提供はもとより、通年型の求人活動をしてください」

「かつては生徒の目はバレーボールだったが、現在はバスケットやサッカーチームのある企業に関心が向けられています。やはりテレビの影響は絶大なもので、プラスチック業界も何か考

えてください。高校の先生は職種に差別はつきませんが、工業科の先生は表情が暗くなりがち一方、商業科の先生は明るいですね。生徒はそれで製造業を敬遠するのですかね」

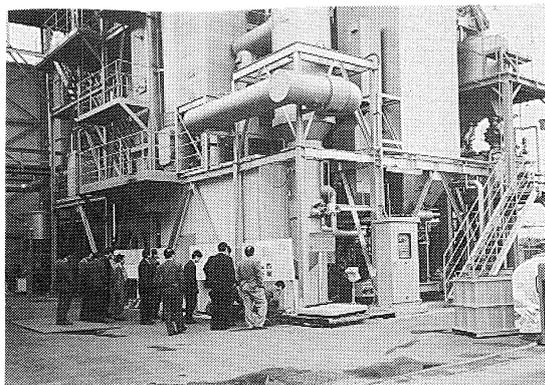
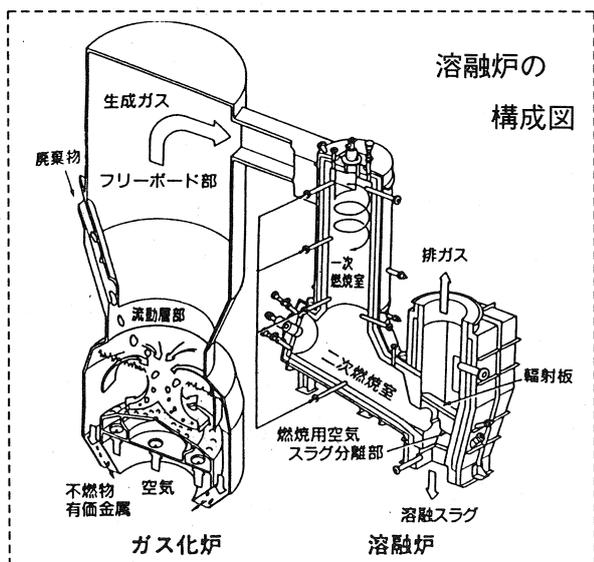
「工業課程を学習した生徒が、工業で身を立てるケースは半数以下になってしまう。生産工場の仕事は社会的に低く見られがちですが、よく考えると業界のPR不足だと思う。工業技術者を主人公にしたドラマは一つもない。製造業の経営者は誇りをもって、生徒に業界の将来性を売り込んでください」

最後に組合員企業が成形加工した各種のサンプル製品を囲んで懇談し、県内プラスチック業界の技術レベルを説明、理解を求めた。

最新のゴミ処理炉視察

事業再構築事業の推進委員ら一行

工業組合は容器包装リサイクル法に関連し、廃プラスチック処理問題検討委員会を組織しているが、2月26日、荏原総合研究所が開発した廃棄物プラント『溶融炉』を視察した。見学先は神奈川県にある荏原製作所藤沢工場で、参加者は日比勝次委員長ら8人に、処理問題を検討してきた岐阜市周辺各市町の廃棄物処理担当者17人も加わった。



溶融炉を視察する一行

一行が見学したのは『エバラ流動床ガス化溶融システム』で、昨年7月から稼働している実証プラント。この溶融炉はガス化炉と組み合わせた装置。鉄・アルミ・プラスチックなどが混在する都市ゴミを高温燃焼させ処理するもので①廃ガス量の低減②ダイオキシンの完全分解③灰の無害化④サーマルリサイクルを前提とした金属の未酸化回収などを特徴としている。

実証プラントは1日20トンの処理能力をもち、都市ゴミばかりでなく家電廃棄物やプラスチック廃棄物、下水などの汚泥まで同時に処理できるという。ガス化炉を出た生成ガス溶融炉に移され1,350℃の高温で有害ガスを完全分解してしまう。同時に廃熱を利用して発電も行うなど、低コスト、省スペース化にも成功している。

事業成果を最終報告

2年間にわたった事業再構築事業

工業組合は昨年度から『事業再構築雇用管理推進事業』に取り組んできたが、3月19日、サンピア岐阜で『最終結果報告会並びに相談会』を開催、2年間にわたった事業を締めくくった。

初年度は調査事業が中心であったが、今年度は「ニューリーダー創造によるビジョンづくり事例紹介」など11事業と4企業が「人材確保戦略」など個別に取り組んだモデル事業を行ってきた。結果報告会は、こうした事業を振り返って



最終結果報告会

①専門家委員の朝日大学経営学部・地代憲弘教授の結果報告②モデルグループの成果報告③雇用促進センターから労働省関連助成事業の説明などがあつた。詳細は次号で紹介。

労働時間短縮自主点検事業終わる

全組合員が達成し定着へ 組合総平均の年間休日は104.3日

岐阜県プラスチック工業組合は、組合員企業における『週40時間労働制』の達成と定着を図っていく必要から、平成9年度事業として『労働時間短縮自主点検事業』に取り組んできたが、このほど事業を終了した。その成果として、時短目標値『週40時間労働、年間休日105日、年間所定労働時間2,080時間』を達成した企業は組合全体の97.9%となり、残る企業も新年度早々には達成する予定である。

これは組合員各企業が『週40時間労働制の実現』をめざして時間短縮に取り組み、企業ひいてはプラスチック成形業界のイメージアップに取り組んだ大いなる成果といえる。

組合総平均

1日の労働時間 7時間44分

工業組合が、平成9年度事業として取り組んだ『労働時間短縮自主点検事業』は、労働省が実施する助成措置の一つで、初年度に県下で5団体が指定された。1年間にわたって取り組んだ事業は①労働時間アンケートの実施②時短マニュアル読本の配布③地域別研修会の開催④個別相談事業の実施⑤会報による組合員への啓蒙⑥時間短縮・休日カレンダーの配布などの事業を行った。

一方、組合員企業も、昨年4月1日の『週40時間労働制の全面適用』を契機に、種々の経営努力を重ね、全組合員が時間短縮の目標達成と定着に取り組んできた。

完全週休2日制の採用は18企業

最終結果による週休制度の形態を見ると、何らかの週休2日制を採用したのは72企業（全組合員の75.0%）週休1日制は7企業（7.3%）会社独自のカレンダーを作成し、実行している企業は13企業（13.5%）に分かれ、残る10企業は



組合員に配布した時短カレンダーと時短報告書

家族労働あるいは全員パートタイマーを採用している企業である。

週休2日制を採用する企業の内訳を見ると、完全週休2日制が18企業（18.8%）にとどまった。月2回週休2日制または隔週週休2日制は36企業（37.4%）と全体の3分の1を上回り、もっとも多かった。

自主点検事業の開始後に、どのような週休形態で休日を増やしかたを見ると「完全週休2日制」「月2回または隔週」「会社独自のカレンダーを採用」の3方法にしばられる。組合員企業



労働時間短縮の成果を実行委員会に最終報告

の事業内容は下請け企業が圧倒的に多い。このため納期や生産量など、受注先の要請に応じた休日体制を整えなくてはならず、会社独自のカレンダーを作成したり、1日の所定労働時間を短縮して時短目標を達成するなど、各企業に苦心の跡が見受けられた。

週4.7時間短縮して38時間48分に

事業推進の結果、年間の休日数は全組合員平均で104.3日。もっとも多かったのは、月2回または隔週の週休2日形態を採用したとみられる年間100日から110日の休日数は38企業(39.5%)が採用した。このうち標準休日数の105日を採用したのは21企業(21.8%)111日以上の休日体制を採用した企業は21企業(21.8%)であった。これとは逆に休日を増やせず、99日以下の休日にとどまったのは28企業(29.1%)もあった。

1日の所定労働時間8.00時間と定めたところは36企業(37.5%)で、全体の3分の1を超えた。しかし、多くの企業は年間休日数や変形労働時間制との兼ね合い、一方、納期や複数の取引先をもつ企業は休日数の増加には限界があり1日の労働時間短縮で休日数を調整した。この結果、50企業(52.0%)がマイナス8.00時間労働

体制を定めている。

その内訳は7.00時間が8企業(8.3%)7.30時間16企業(16.7%)7.40時間9企業(9.4%)7.45時間9企業(9.3%)さらに微妙に所定労働時間を短縮した7.50時間が6企業(6.3%)7.55時間では2企業(2.1%)に分かれる。したがって組合員全体を平均した1日の所定労働時間は、7時間44分になっている。

労働時間短縮自主点検事業の実施による成果を見ると、事業当初は、組合員平均の週所定労働時間が43時間30分。事業終了の年度末には40時間を割り、38時間48分に短縮した。その短縮時間は4.7時間、短縮率では10.8%の成果をあげたことになる。

組合員平均の年間所定休日数は、事業着手時の96.5日から、事業終了の年度末には104.3日へと増えた。増加休日数は組合員平均で6.8日増加率では8.0%に達した。

時短のかべ生産性と人件費コスト

事業実施により94企業(97.9%)が中小企業に課せられた時短目標値『週40時間労働制、年間所定休日数105日、年間所定労働時間2,080時間』をクリア(雇用のない4企業を含む。時短の主旨を理解してもらっている)した。

こうした時短によって問題点が生じなかったわけではない。時短踏み切りのハードルは、人件費コスト上昇や生産性・売上高の確保を「どう解決していくのか」にあり、各企業が苦心を要した点であった。

ともあれ全組合員が時短の達成にこぎつけることができたのは、個々の企業、ひいてはプラスチック成形業界全体のイメージアップにつながる大いなる成果であり、今後はその定着を図っていくことが課せられた責務といえる。

出荷額3,177億円余を記録

平成8年のプラスチック生産額

前年比5%増、最盛時へあと一步

岐阜県内のプラスチック製品製造業は、バブルや円高不況の影響から完全に脱出して最盛時、平成4年にあと一步と迫り、その年間製造品出荷額は3,177億円余を記録した。

岐阜県がまとめた平成8年の工業統計によると、事業所数が874事業所、その従業者数は1万3,171人、年間の製造品出荷額は3,177億6,755万円を記録した。前年に比べて事業所は1.6%増加、従業者で2.6%増加、とくに出荷額では5.0%、付加価値額では6.0%もの大幅な増加となり、県内主力産業としての揺るぎない基盤を整えている。

法人対個人の比率 が半々近くに迫る

まとまった平成8年の工業統計調査は最新の数字で、前年（平成7年）にプラスチック業界が記録した実績と比較すると。

《事業所》事業所数の874事業所は14事業所の増加。県内各産業は非鉄金属、繊維、衣服、木工、鉄鋼など大半の業種が減少したのに比べ、プラスチックは1.6%の増加でまずまずの状況だった。

全県の事業所数は2万2,800事業所、前年に比べて2.3%、534事業所も減少、昭和30年以降では最長の5年連続の減少となった。規模別には従業者が9人以下が526事業所も占め、急速に転廃業が進んだ。

プラスチック製品製造業を組織別にみると、会社法人が427事業所、個人企業は445事業所組合は工業組合と健保組合の各1組合に分かれる。会社法人対個人企業の比率を見ると、6年前が38対62で大きく開きがあったのに対し、今

岐阜県内プラスチック業界の規模

（平成8年工業統計調査から）

◎事業所数874カ所 （会社法人427、組合団体2、個人445）
◎常用従業者数1万3,171人 （男7,639人、女4,822人） （個人事業主と家族従業者710人）
◎製造品出荷額3,177億6,755万円 （全工業出荷額に占めるウェートは5.9%） （岐阜県産業別の順位は6位）
◎付加価値額1,312億5,583万円 （1人当たりの付加価値生産額は997万円） （岐阜県産業総平均では864万円）

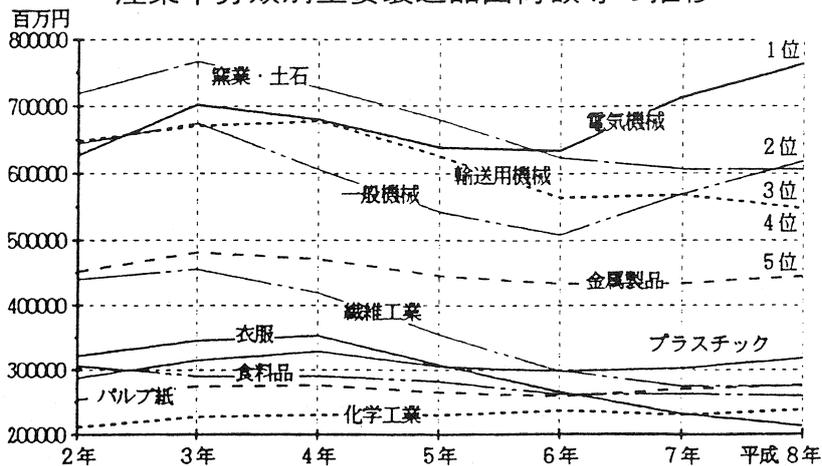
回の調査では半々近くになった。

商法改正を機会に個人企業から法人化への組織変えが進んでいたが、この年は少なかった。新規事業所はすべて会社法人とみられる。

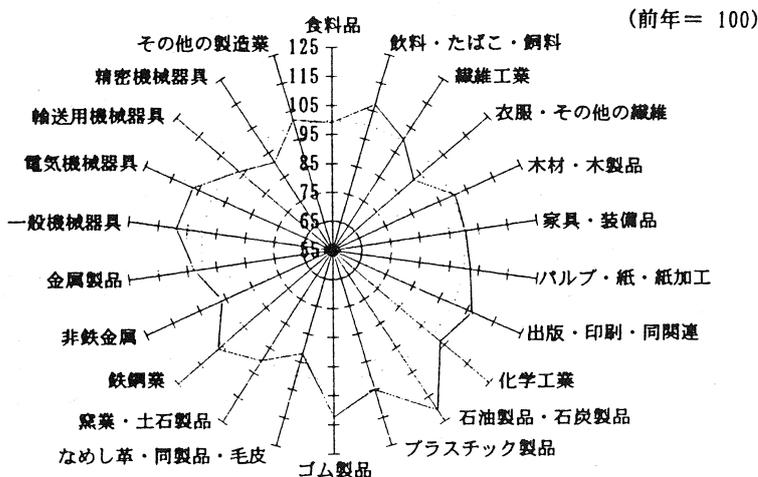
県全体の従業者数は5年連続減

《従業者》プラスチック産業の事業所に働く総従業者数は、1万3,171人で、前年より2.9%

産業中分類別主要製造品出荷額等の推移



産業中分類別主要製造品出荷額等の前年比較



プラスチックは
県内工業の6位

《製造品出荷額》プラスチック業界の製造品出荷額は3,177億6,755万円で、3千億台へ着実に乗せ、これまでのピーク平成4年の3,271億円へあと一息に迫った。前年に比べると150億7,500万円（前年比5.0%）の増加だった。

県内工業に占める構成比は0.2%アップし5.9%に上昇、その順位は①電気機械機具②一般機械機具③窯業土石④輸送用機械機具⑤金属製品⑥プラスチック⑦パルプ・紙⑧繊維⑨食料品⑩化学工業となり、繊維、衣服、パルプ・紙などの業種を抜

376人の増加であった。事業所の増加によるものとみられる。常用労働者数は1万2,461人（男7,639人、女4,822人）で、個人事業主および家族従業者数は710人（うち男447人、女263人）であった。

県全体の従業者数は平成3年の29万1,125人をピークに年々減り、いらい5年間連続の減少となり、合計では3万2,087人（11.4%減）の減少となった。

平成8年の総従業者数は25万8,218人（前年比で2,011人減、0.8%減）となった。とくに窯業・土石、繊維、衣服などの地場産業関連業種の減少が目立っている。

き6位へ飛躍した。

岐阜県全体の製造品出荷額は5兆4,000億円で前年に比べ1,261億円（2.4%）の増加で、平成3年のピーク時に比べると、89.0%の回復率にとどまった。

業種別には電気機械機具、一般機械機具それにプラスチック製造の伸びが目立ち、繊維、衣服などの地場産業が大きく減少した。

地域別には①岐阜地域27.9%②大垣地域21.4%③可茂地域19.3%の順で、この3地域で全県の約7割を占める。増加したのは可茂、中濃、大垣の3地域が目立ち、なかでも可茂地域は増加額の約半数を占める伸びをみせた。

付加価値額は県の平均を上回る

《付加価値額》さらにプラスチック業界の生産加工能力を示す付加価値額（製造品出荷額から加工賃収入額と修理料収入額の差し引き額）は1,312億5,583万円で、前年より6.0%増加、県内工業に占める構成比も5.9%へ上昇した。

県全体の付加価値額は、総額2兆2,307億円、前年に比べて453億円（2.1%）の増加となった。平成3年に記録したピーク時に比べると、92.5%まで回復している。

付加価値額の業種別順位は①窯業土石②電気機械器具③一般機械器具④輸送用機械器具⑤金

属製品⑥化学⑦プラスチック製品⑧パルプ・紙⑨食料品⑩繊維⑩衣服一の順となり、プラスチック製造は順位を固めた。

労働生産性（従業者1人当たりの製造品出荷額）は、全県平均2,091万円で、前年に比べ65万円（3.2%）の増加。これに対しプラスチック製品は、2,412万円、前年に比べ47万円（1.9%）の増加だった。

また、付加価値生産性（従業者1人当たりの付加価値額）は、県平均で864万円（前年比24万円、2.9%増）となり、前年に続き増加となった。プラスチック製造は順調に伸びて997万円で、県平均を132万円も上回った。

大阪の鉄工金属団地を視察研修

― 組合青年部が青年部研究会事業をかねて実施 ―

組合青年部は1月26日、今年度の視察研修事業として大阪鉄工金属団地協同組合を訪問し、組合運営や青年部活動をテーマに懇談した後、組合員企業の工場を視察した。中小企業団体中央会指定の青年部研究会事業をかねたもので、杉山元彦部長ら10人の青年部員が参加した。

視察した大阪鉄工金属団地協同組合は、昭和45年、大阪湾沿い岸和田市の臨海工業地帯に誕生した工場団地の組合。事務長の栗栖正さんによると「団地は埋め立て造成地約31万7千平方メートルの規模に、鉄工・機械関連55社が集まって運

営している。共同事業は駐車場、排水処理、トラックスケール、組合会館の運営など。この事業収入

は約1億円で、総収入の82%を占める」という。その「利益金は3,100万円にものぼり組合賦課金はなし。すべての団地事業が受益者負担」で、うらやましい運営内容だった。

また、組合青年部・双葉会のメンバーとも交流し、平成7年度から取り組んできた『小集団活動』で成果をあげた生産性向上、省力化・省資源化対策をテーマに懇談した後、具体的事例として理事長会社・昭和精工(株)を見学した。

「提案力身に付けよ」青年部講演会

組合青年部は3月6日、ホテルスポーツパルコで講演会を開いた。今回の講師は中小企業診断士の伊藤猛雄氏。

講演テーマは私たちの役割―提案力で「経済の流れが消費者・生活者優先の時代に入ると、機会の平等が与えられ、競争社会となる。これを生きぬくには提案力を身に付け、時代の流れをつかむ感性を磨くこと」と呼びかけた。



小集団活動の成果を見学する青年部一行

景気対策が柱の県の新年度予算

岐阜県の98年度当初予算は一般会計が8,716億円（前年度当初比4.3%増、実質0.4%減）となった。特別会計と企業会計を合計した予算総額は9,563億円（前年度当初比4.8%増、実質0.6%減）と建設事業など景気対策を柱とした予算内容になったが、その財源確保に県債1,156億円を予定している。

中小企業関係予算をみると▽地場産業活性化資金など中小企業制度融資の枠を40億円増やし新規需要にこたえる▽優れた県産品「ザ・ベスト・オブ・ギフ」を開発、認定、販売を促進しブランド化していく▽産業施設を新たな観光資源として発掘し、情報発信していく▽マイタリアのドムスアカデミーによるセミナーを開催し、県内企業のデザイン力を向上させる▽廃棄物処理を推進するため県全体と5圏域別の基本計画をつくる—などがある。

県が5圏域に地域振興局

岐阜県は県内12カ所にある県事務所と各種出先機関を再編・統合し、新たに5つの圏域ごとの広域行政組

織として「地域振興局」を設置する構想を進めている。議会や各市町村などと協議しながら、21世紀初頭の実現をめざしている。

構想では県内を岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨の5地域に分け、それぞれに地域振興局を置く。各局には地域振興室と会計課を配置し、地域施策の立案や進行管理に当たる他、企画、総務、市町村財政、産業労働を担当するなど、従来の縦割り行政を解消、効率化を図っていく。実現すると12県事務所は廃止、農業、土木、県税、建築、福祉事務所の出先機関は局内組織として再編される。

シーシーアイが自燃式ごみ溶融炉を製販

環境装置産業がクローズアップされているが、組合員のシーシーアイ（本社関市新迫間、岡部修二社長）が、新型ごみ処理炉・自燃式灰の溶融炉「パラテックススペース」の製造販売を開始し、話題になっている。

開発したテラボンド社と新会社「シーシーアイ・エンパイロ社」を設立、製造販売していくもの。溶融炉の特徴は、アルミくずと鉄くず（酸化鉄）を化学反応させ、1千度以上の高温を発生させ、ごみを完結処理するという方法。このため灰の自燃式という。焼却後の灰は、ごみの1%になり、スラグは路盤材などに利用できる。

ポリエチレン

スミカセン[®]

エチレン酢酸ビニル共重合樹脂

エバテート[®]

ポリプロピレン

住友ノーブレン[®]

ポリスチレン樹脂

エスブライト

塩化ビニル樹脂

スミリット[®]

メタアクリルシート

スミペックス[®]

メタアクリル樹脂

スミペックス-B[®]

高密度ポリエチレン

スミカセンハード

熱可塑性エラストマー

住友TPE

合成ゴムSBR

住友SBR

合成ゴムEPR

エスプレン[®]

エチレン酢酸ビニル

塩化ビニル共重合樹脂

スミグラフト[®]



住友化学工業株式会社

名古屋支店 〒460 名古屋市中区錦1丁目11番18号(興銀ビル)
電話 <052> 201-7571

デザインの心-17

アナログとデジタル、そしてデザイン

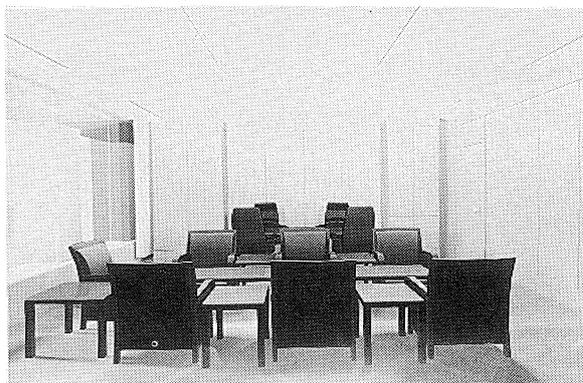
岐阜県プラスチックデザイン協会

「マルチメディア」に「インターネット」。この二つの言葉を聞いたことのない人はもはやいないことでしょう。また同時に、この二つの言葉を正しく、分かり易く説明できる人もなかなかいないかと思えます。もちろん私もその一人で、ただ何となく使っていますが、良く考えたらマルチメディアって一体なんだ？という疑問を持つ今日この頃です。

それはさておき、これらがかつての冷蔵庫やテレビのように、家庭においても「一家に一台」となったコンピューターと深い関わりを持っていることは誰でも周知の通りです。そう、このコンピューターがこれだけ一般に普及したのは、正にこの二つの言葉によるものといえるでしょう。また、これだけ普及した便利な道具がデザインの世界でも利用されないはずはなく、今や「コンピューターなくしてはデザインの仕事はできない」とまで言われる時世となってしまいました。果たしてどうでしょうか。

確かに、上記のインターネットなどの普及に伴い、具体的にはホームページ作成など新たなデザインワークが出現したのも事実です。また、特にグラフィックデザインなどは、アナログな写植に替わってDPTというデジタル化が常識となってしまった分野もあります。これらのことを考えると、デジタル化が全く行われていないデザイン分野はありませんし、また、デジタル化を全く行っていないデザイン関連会社もほとんどないかと思えます。

かつては「デザイナー」というとスケッチが上手くて、アイデアはもちろんの事、その技術を売り物として成り立っていた職種です。それ



CGによるプレゼンテーションの一例

がコンピューターの一般化に伴い、誰もがデザイナーになりうる可能性を持つようになりました。しかし、そこが逆に盲点であって、誰でもできる＝どれでも同じという結果を生み出しています。プロとしてのデザインワークを生み出すには他人とは違う何かを見つけなければなりません。そのひとつに、かつてのアナログ的な視点というものが大きなヒントになるのではないかと私は考えています。もちろん、コンピューターという便利な道具を否定するわけではありません。むしろ、大いに有効利用すべきでしょう。

デジタルワークをしながらも、常にアナログ視点、思考を忘れないこと、それがこのデジタルな時代に最も必要なことなのではないでしょうか。そして、コンピューターに踊らされるのではなく、自分あつてのコンピューター、また、コンピューターだけがすべての解答につながるのではないということを念頭に入れておくべきではないかと思うのです。

今後もアナログとデジタル、そしてデザインとの関係は目が離せません。

(岐阜県工業技術センター・デザイン室)

新材着色から各種樹脂の再生加工を行う

株式会社ヨコー

工場訪問は昨春、組合加入して丸一年になる株式会社ヨコー（横尾貢社長、恵那郡明智町大久手1001、資本金1,600万円、従業員28人）を訪ねた。会社のある明智町といえば「大正村」を売り込んで有名になった町。

ヨコーの本社工場は、その明智町が町の南部に造成した工業団地内にある。丘陵地の南斜面を切り開いた工場用地は、9,322平方メートルの広さ。工場は正方形の2,120平方メートル、それに製品倉庫のテントハウス（480平方メートル）もある。

豊田から社長の出身地・明智町に

工場の二階にある事務所を訪ねると「社長は親会社(株)ヤマコーの会長も兼ね、豊田市にいます…」と前置きして話し始めたのは、社長の長男で常務の横尾重徳さん。

「ヤマコーというのは、豊田市にある和光化成グループの精密成形専門のモルダー。昭和46年、分社化の波によって再生部門を分離独立さ

せたのがヨコー。当初は豊田市内に本社工場をもち、系列の成形工場から出る廃棄樹脂の再生を一手に引き受けてきた」という。

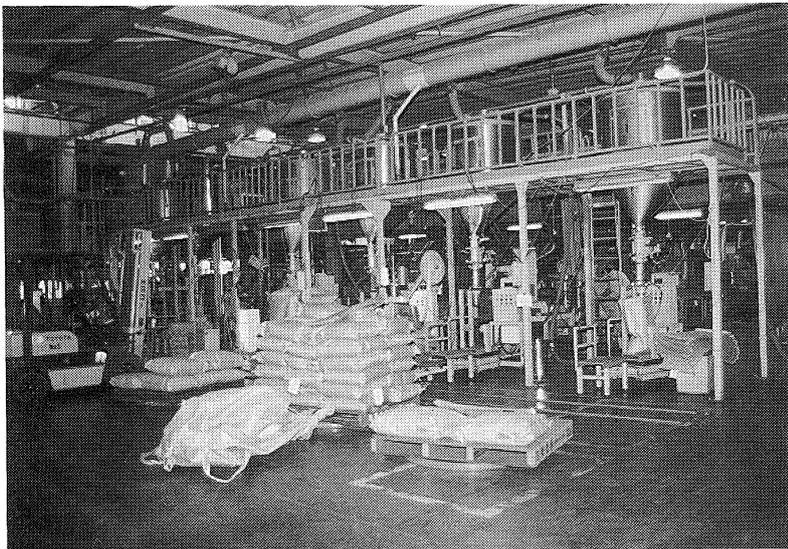
事業は年々拡大、新材（ABS、PPなど）の着色・調色まで手がけるようになり、工場は手狭になった。折り好く新工場の建設計画中に「社長の出身地・明智町で工業団地を造成している」ことを知り、確保したのがこの用地。豊田とは車で1時間の恵まれた立地である。

近い将来、隣接地に物流倉庫作る

稼働は昭和60年12月。平成に入ると明智の施設は時流に乗って充実「生産拠点は完全に移り代わったことから、明智を本社工場とし、豊田工場は小ロット、高難易度の再生専門工場にした」と、横尾常務は説明に熱を入れる。

自慢の施設は、押出機が9系列（豊田に4系列）高速ミキサー4基、タンブラー5基、粉碎機5台をはじめ、樹脂の着色や再生に必要な最新の設備が並ぶ。しかも、加工工場の一角には成形機、衝撃試験機、カラーコンピュータを備えた試験室がある。

横尾常務は「全責任を背負ってもう6年、これまで取り組んできたことは快適な工場づくりです。新材の着色・調色や再生事業は決して先端技術とはいえないが、今の社会には不可欠な技術なので、従業員にはしっかりプライドをもって働いてもらっています」今後、取り組むことは「隣接地に確保した4,200平方メートルに、物流倉庫を作ること」と将来への夢も描く。



カラーリングやリサイクルの最新設備が並ぶ本社工場

事務局だより

会員と事務局を結ぶページ

□休日カレンダーは予備があります□

工業組合が昨年から取り組んできました「事業再構築雇用管理推進事業」また1年間かけて実施しました「労働時間短縮自主点検事業」が3月末で終わりました。今後は組合員個々の経営の中で、事業の主旨を活かしてください。

組合では事業の集大成として「事業報告書」を作成中です。すでに「労働時間短縮自主点検事業」の報告書はお送りし「事業再構築雇用管理推進事業」の報告書は作成中で、完成しだい発送します。なお、2月にお送りしました「労働時間短縮・休日カレンダー」は予備部数があり、ご希望があれば発送いたします。

□大卒予定の求人受理4月1日から□

公共職業安定所は平成10年度の大学等卒業予

定者の採用・就職活動についての取り扱いを次のように決め、協力を呼びかけています。

「平成11年3月大学等卒の求人受理は、平成10年4月1日以降受け付ける。職業安定所が作成する求人情報、ガイドブックの発行は平成10年4月1日以降とする。職業安定所が主催する求人公開説明会・就職面接は求人受理・公示開始以降に、大学等の学事日程や求人状況の実情に応じて開催する」

岐阜県のプラスチック 1998 140号

平成10年3月31日発行

発行 岐阜市六条南2丁目11番地1号
(岐阜産業会館4階)

電話 (058) 272-7173

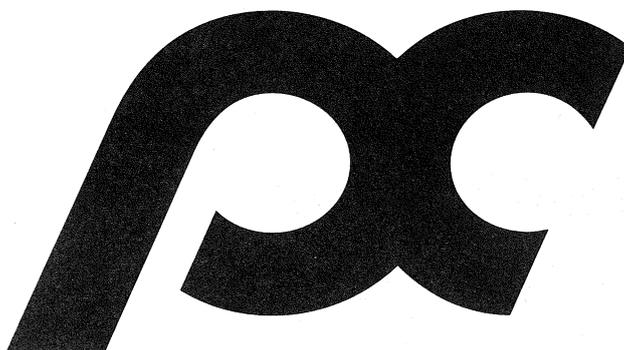
FAX (058) 276-1525

岐阜県プラスチック工業組合

発行責任者 井森 秀畝

創世ポリケム・パワー

質を創るトータル・ポリオレフィン・カンパニー



三菱化学と東燃化学との創造的な出会いから生まれたポリケムは、平成8年9月、質を創るトータル・ポリオレフィン・カンパニーをめざしスタートしました。ポリオレフィン樹脂のスペシャリストとして、国内では最大、世界でも有数の規模を誇るポリケムは、四日市・川崎・水島の3技術センターのそれぞれの特長を活かし、多種・多様で高品質のポリケム・バリューをお届けしてまいります。

技術と信頼の証 **ノバテック**
NOVATEC

NOVAは「新星」。
ポリケムは、常に先進の技術革新に取り組み、最新・
最良の品質のポリオレフィン樹脂「ノバテック
(NOVATEC)」をお届けします。

高密度ポリエチレン——— ノバテックHD
低密度ポリエチレン——— ノバテックLD
直鎖状低密度ポリエチレン——— ノバテックLL
直鎖状低密度ポリエチレン——— ノバテックC6
エチレン-酢酸ビニル共重合樹脂——— ノバテックEVA
ポリプロピレン——— ノバテックPP

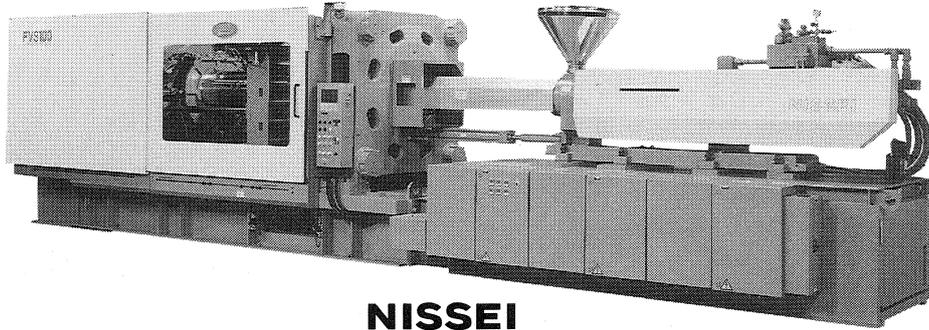
日本ポリケム株式会社 東京都千代田区有楽町1-10-1 有楽町ビル 1001
TEL 03-3267-8010 FAX 03-3267-8040

時代を創る 時代に答える

私たちNISSEIは、射出成形機の専門メーカーとして、プラスチック成形技術の開発に努めてきました。
成形機を中心に金型・生産システムなど、技術の幅を広げ、国内トップメーカーとして業界をリードしています。
プラスチックの活用はますます裾野を広げる中、プラスチック応用技術を通して、活力ある産業社会、心豊かな生活文化の創造に貢献しています。
「人と暮らしに役立つ、新しいモノづくり」これが私たちの恒久のテーマです。

新たな発想で生まれた高性能・低価格大型機

FVシリーズ (FV9000, 9100, 9200, 9400)



NISSEI

日精樹脂工業株式会社

■名古屋営業所 / 愛知県小牧市外堀2-167 ☎ (0568) 75-9555(代)

■岡崎出張所 / 愛知県岡崎市上六名4-1-8三剛ビル1F ☎ (0564) 52-1430 ■三重出張所 / 三重県津市神戸横田203-4 ☎ (059) 224-0716

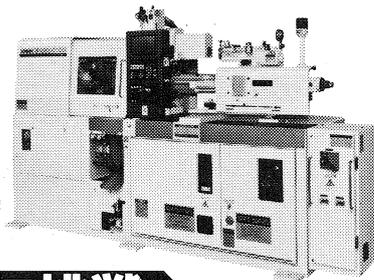
■本社・工場・研究開発センター / 長野県坂城町南条2110 ☎ (0268) 82-3000(大代表)

■東京事務所 ■テクニカルセンター / 本社・相模原・岩槻・名古屋・大阪 ■営業所 / 全国11カ所 / 出張所 / 全国19カ所 ■海外サービスステーション / 28カ所

● <http://www.nisseijushi.co.jp>

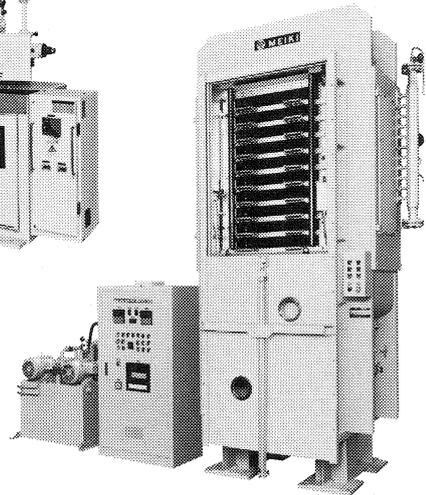
MEIKI

DVD専用機

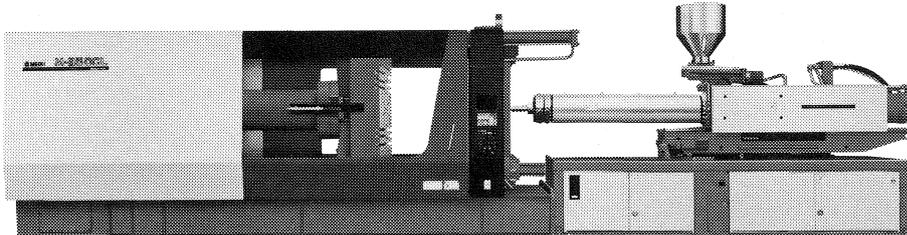


ハイテクノロジーに挑戦

プラスチック、光ディスク (DVD) 射出成形機、IC基板成形プレス等、先端技術加工機を生産して、世界の名機として活躍しています。



IC基板成形プレス



プラスチック射出成形機

 株式会社 名機製作所

本社・工場 〒474 愛知県大府市北崎町大根2 ☎ <0562>48-2111(代)
中部支店 〒474 愛知県大府市北崎町大根2 ☎ <0562>47-2391(代)
岐阜出張所 〒501-61 岐阜県羽島郡岐南町上印食8-104 ☎ <058>247-2674

化学の、もっと大きな可能性へ。

私たちがめざすのは、新しい時代の化学会社。

よりグローバルに、よりダイナミックに、もっと大きな可能性を求めて、

三菱化学は世界の期待に応えます。

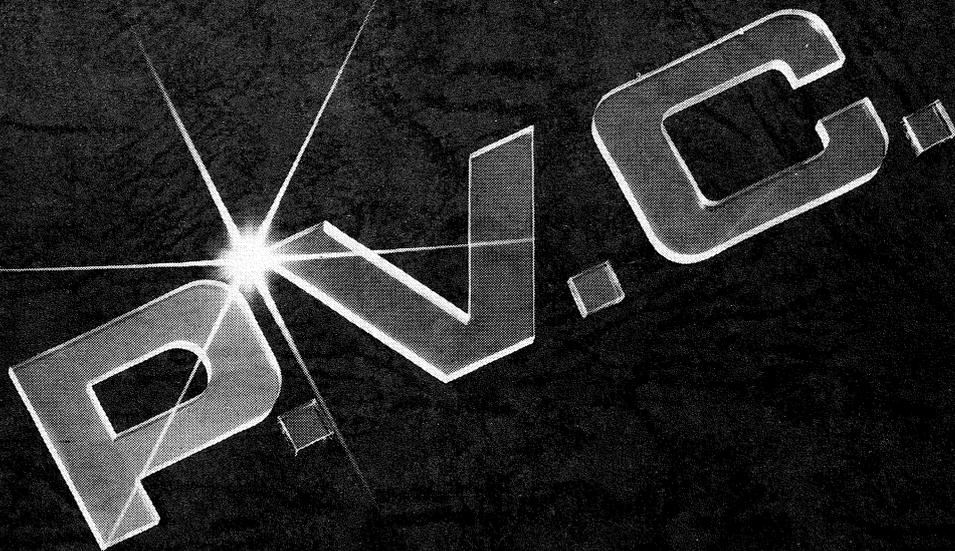


三菱化学

▲三菱化学株式会社 東京都千代田区丸の内2-5-2 〒100(三菱ビルディング) Telephone:03-3283-6274(ダイヤルイン)

ShinEtsu 信越PVC

生活用品からエレクトロニクス材料まで——信越PVC



P.V.C.

信越化学工業株式会社 名古屋支店 〒450 名古屋市中村区名駅4-27-23(名古屋三井ビル東館)
☎(052)581-0651

くらしのこだわり…

**HOME &
HOME**

-RISU BASIC-

クワック
croissant®

より洗いやすく、より快適に。

キッチンウエアはいつも清潔にしておきたい。

そんな要望にお応えして、リスは「より洗いやすい」形状と素材を開発しました。

キッチンウエア
3つの Point

ポイント
1

汚れ防止加工

台所の汚れが付きにくく落ちやすい
特殊加工の素材を使用しています

ポイント
2

洗い易いかたち

余分な凹凸を無くし、洗浄がラクラク

ポイント
3

抗菌 めめり防止加工

半永久効果持続、無機系抗菌剤だから安心

リス株式会社

岐阜プラスチック工業株式会社

岐阜プラスチックグループ

●本社：岐阜市神田町9丁目25番地
TEL：<058>265-2233

●リスパック株式会社 ●リスエンジニアリング株式会社
●リス株式会社
●リス興業株式会社